

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成29年2月8日 NO.89 (389)



カンザクラ (谷保駅に咲いています)

花ちゃん 「『♪春は名のみ風の寒さや 谷のウグイス 歌は思えど♪』・・・」

オー君 「あ！花ちゃんの歌だ。きれいな声だな。上手だな。でも、何という歌なの。」

モンタ博士 「『早春賦』という歌だよ。今から100年くらい前にできた歌だね。昔の小学校の音楽の時間に歌った曲なんだ。」

花ちゃん 「私はこの歌が好きなの。お母さんに教えてもらったのよ。いい歌でしょ。」

春を待つ気分で、何だかわくわくしますね。」

モンタ博士 「そうだね。暦の上では、節分・立春も過ぎて『春』といってもいいけど、ほほにあたる風はまだまだ冷たいね。」

花ちゃん 「それでも、少しずつお日様の光は、明るくなってきた感じがしますね。」

オー君 「そうだね。夕方そんなに早く暗くならないもんね。少しずつ日がのびてるんだ。」

早春賦

春は名のみ風の寒さや
谷の鶯 歌は思えど
時にあらずと 声も立てず
時にあらずと 声も立てず

氷解け去り葦は角ぐむ
さては時ぞと 思うあやにく
今日もきのうも 雪の空
今日もきのうも 雪の空

春と聞かねば 知らでありしを
聞けば急かる 胸の思を
いかにせよとの この頃か
いかにせよとの この頃か

モンタ博士「そのとおりだね。春は明るい光とともに、秋は涼しい風とともに訪れるというからね。いろいろな自然の様子から季節を感じる事が大切なんだよ。オオイヌノフグリやホトケノザなども顔を見せはじめてきたし、国立七小の裏庭のウメもちらほらと咲いてきたよ。」

オー君「そういえば、谷保天神のウメも咲いてきたよ。」

花ちゃん「ところで、左の絵はサクラの絵のようですが・・・。」

オー君「サクラ・・・？でも、サクラはまだちょっと早いんじゃないの。」

モンタ博士「そんなことはないよ。この絵は、谷保駅のものを描いたんだよ。」

オー君「え！谷保駅にあるの。」

モンタ博士「そうだよ。川崎行きホームの後ろ。駅北側のコンビニのななめ前だよ。」

花ちゃん「ほんとうですか。こんど見に行こうね。オー君！」

オー君「うん！そうしよう。そうしよう。」

花ちゃん「ところで、このサクラの名前はなんというのですか。」

モンタ博士「このサクラはね、『カンザクラ（寒桜）』という名前のサクラだよ。」

花ちゃん「色がうすいピンク色で、やさしい感じの花ですね。」

オー君「それから、ちょっと小さくてかわいい花だね。」

モンタ博士「みんなが知っているサクラで、国立の大学通りにも植えられているソメイヨシノというサクラとは、ちょっとちがうんだよ。」

オー君「でも、どうしてちがうのかな。」

モンタ博士「それはね、つまりこうなんだ。サクラというのは、自然に自生しているもの他に、たくさんの種類（雑種とか品種とかよばれる）があるということなんだよ。」

花ちゃん「そうなんですか。いろいろと勉強になりました。」

モンタ博士「谷保駅のサクラだけど、カンザクラのとなりにもう一本のサクラがあって、オオカンザクラといって、またちがう種類のサクラなんだよ。このあとまた少しすると咲き始めるから見てごらん。モンタ博士の夢はね、そのうちいつか、沖縄から北海道までのサクラを見ることなんだ。」